

9 研究活動と研究環境

進捗状況報告

2005年4月に駐日欧州代表部の財政的支援のもとに関西学院大学、神戸大学、大阪大学のコンソーシアムとして開設されたEUインスティテュート関西にも商学部教員は参画しており、これらの国際的な研究活動でも貢献している。また、研究成果は短期的にみることには問題もあるが、2006年度には、レフェリーつき論文も11本、招待講演も4回と増加傾向にあり、研究活動の成果が現れつつあると思われる。

学内第三者評価

EUインスティテュート関西への参画による国際的な研究活動は評価できる。
2005年度認証評価の（総評）における研究業績への指摘については、進捗状況報告に記されていることのほかに、2006年度には著書が39本と過去6年間で最多となっているが、「論文数」は2002年の70本から4分の1以下の15本に減少しているほか、学会報告、調査報告が減少している。これらの点についての分析と対策が求められている。

学部	年度	著書	論文	レフェリー付論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願
商学部	2001	20	61	18	20	0	1	9	9	12	0	2	15	2	0	0
	2002	39	70	15	43	0	2	7	12	5	1	8	12	2	0	0
	2003	29	42	10	22	0	2	5	5	5	0	3	6	1	0	0
	2004	25	37	7	21	0	3	3	3	12	1	2	2	0	0	0
	2005	19	30	9	19	0	3	8	1	12	2	8	3	0	0	0
	2006	39	15	11	15	0	0	1	3	13	1	1	8	4	0	0